

Topic 35

米国メリーランド州の VCP

- 1) こんなところです
- 2) メリーランド州の VCP とブラウンフィールド プログラム

お疲れ様です。環境メルマの佐藤です。今週は、メリーランド州にスポットを当ててブラウンフィールド再開発をみてみます。

1) こんなところです

メリーランド州は、VCP の先進州であるペンシルバニア州の南に位置する州。1788 年 4 月 28 日に米国に加入しました。州の総人口は約 560 万人弱（2004 年）、人口密度は約 170 人/km²、州都はアンネ アルンデル郡のアンナポリス、州最大都市はボルチモア市です。

同州の特徴の 1 つは、水域が州総面積の約 21% をも占めることです。それもそのはず、地図を見ていただければ一目瞭然。州の東側は大西洋に接しており、州の中央には世界で 2 番目に大きな湾「チェサピーク湾」がダイナミックに南北に走り、南側にはポトマック川が悠々と流れています。

「チェサピーク」とは、アメリカ先住民の言語で「カキの住む偉大な海」といった意味をもつそうです。その名前からも推測できるように、この湾は、カキをはじめ信じがたいほどに生命を育む力のある、神秘的で偉大な海域だったのです。

湾岸の都市開発による人口増加や工業の発達により海洋汚染が進行し、今では海洋生態系の破壊が社会問題になっていますが、それでもこのあたりの名物といえば海産物です。一般に「米国の人は生の海産物が苦手」と言われていますが、この辺りの人々は生カキを食します。カキだけでなく、おいしいカニが取れることでも有名です。脱皮したばかりの柔らかい殻をもつカニ（ソフトシェルクラブ）は大人気で、メリーランドのシーフードレシピに欠かせません。以前に料理の鉄人（Iron Chef!）でも紹介されていました。

このように人間生活に豊かさをもたらしてくれるチェサピーク湾の自然環境回復を目標に、米国環境保護庁はチェサピーク湾オフィスを設置し、水質改善をはじめとする環境浄化活動を展開しています。

2) メリーランド州の VCP とブラウンフィールド プログラム

メリーランド州では水域における環境破壊が地域問題として注目されている感をうけますが、土壌汚染はどうでしょうか。

同州では、1997年にVCPとブラウンフィールド再開発インセンティブプログラムが設立されており、前者は州環境局、後者は州のビジネス・経済開発局により運営されています。以下に、それぞれの内容を紹介いたします。

・「VCP」

本プログラムのゴールは、汚染サイトの浄化プロセスの合理化をはかり、州内にある土壤汚染浄化を促すこと。プログラムが支援するサイトは、比較的軽度汚染されたサイトから重度の複合汚染が存在するサイトまで様々であるため、本プログラムは、幾つかの浄化目標の中から対象サイトを浄化するために適切なものを選択できる仕組みを提供しています。選択肢は以下のとおりです。

- ・ 州の環境局が開発した「ユニフォームリスクベースに基づく浄化目標」：工業地用と住宅地がある。
- ・ それぞれのサイトにおけるリスクアセスメントに基づいた目標
- ・ 汚染される前の状態を目標とする
- ・ 連邦あるいは州が定める土壤と水質の目標
- ・ 連邦あるいは州が定める最高汚染値に基づいた目標
- ・ 連邦あるいは州が定めるその他の目標

他州と同様、プログラムの要求に従い浄化を完了した暁には、浄化終了証書が発行されます。また、同州では米国環境保護庁（USEPA）と合意の覚書（Memorandum of Agreement）を交わしており、同州の土地リサイクルプログラムに従って自主浄化を終了した、または現在プログラムに登録されているサイトにおいては、連邦から口出しされないという約束が成立しています。

2004年の時点で、VCPに登録中のサイトは134件（合計面積で約8.8km²）。ですから1件あたりの平均面積は約6.5万m²ということになります。ちなみに、これまでに浄化が完了したサイトは106件（総面積は約7.4km²）です。

・「ブラウンフィールド再開発インセンティブプログラム」

こちらのプログラムは、低・未利用の状態にある都市部の経済開発促進を目指しています。具体的な支援内容は、連邦からの援助金を利用して、個人または民間が所有するブラウンフィールドにおけるPhase I&II サイトアセスメント実施費用の援助することです。

以前ご紹介したペンシルバニア州やマサチューセッツ州ほど、独自性をもったプログラムではないようですが、現在までに浄化された面積からも分かりますとおり、ブラウンフィールドの浄化は着々と進んでいるようです。

来週は、ヴァージニア州のVCPをご紹介します。

Thanks God It's Friday!

Thanks God It's Brownfield!!

環境メルマ 佐藤 (t.sato@ers-co.jp)

坂野のつけたし (banno@ers-co.jp)

Nickname -- 「The Old Line State (線といっても独立戦争のころの戦線のこと)」 「The Free State (禁酒法だなんてほっといてくれ、という 20 世紀はじめの話)」 「牡蠣の州 (チェッサピーク湾)」

事例紹介 -Baltimore (ボルチモア) : ウォーターフロントで 10 年以上も放っておかれた缶工場跡地が商業施設や事務所ビルに生まれ変わり 700 人の雇用を生んだ話。同じく、内湾のウォーターフロントにあったプロクター&ギャンブルの工場跡地が、1500 人以上が働くビジネス街になった話。サクセスストーリーのそれぞれに、苦労や喜びを共有した仲間たちがいます。名づけて、Brownfield Showcase Community Team。彼らの経験は、ボルチモア水族館の人たちとっしょになって、7000 m²あまりの水辺の生き物たちや自然を保護するセンターの建設にも活かされました。 (http://www.epa.gov/brownfields/pdf/ss_balti.pdf)